

## 高崎経済大学地域科学研究所 ニュースレター No.16

目次	所長挨拶	(1)
	事業報告① 第4回市民ゼミ	(2)
	事業報告② 第38回公開講座	(7)
	地域科学研究所動静	(19)
	編集後記	(19)

### 所長就任のごあいさつ

所長 高松 正毅

2021年4月から地域科学研究所所長を拝命いたしました高松正毅です。高崎経済大学地域科学研究所は、その前身である産業研究所（1979年設置）と地域政策研究センター（1998年設置）を統合し、2015年に設立されました。この6年間、前西野寿章所長により、その機能と事業に整備と拡充が重ねられて参りました。

事業ラインナップには、シンポジウム・公開講演会、地域経営セミナー、地元学講座、地域めぐり、公開講座、連携公開講座、あすなる市民ゼミ、プロジェクト研究などがあります。うち、あすなる市民ゼミについては、本ニュースレターに記載がありますので、是非ご一読ください。また、研究成果は、書籍やブックレットとして公開しております。

西野教授より、これらの事業を引き継ぐにあたっては身の引き締まる思いがあり、その重さゆえに気負いもございました。ところが、今般のコロナ禍により、出鼻をくじかれる結果となり、その事業は様々な面で不如意を強いられ、結局はできることをできる範囲内で行うという最低限の形にとどまっております。昨年度より、大学の講義が急遽オンラインとなったことに倣い、オンライン開催を取り入れるなど、馴れないことにも挑んでおりますが、いまだ軌道に乗ったとは言えない状況です。

市民・県民のみなさまには、引き続きご迷惑をおかけすることになるかと存じますが、地域科学研究所は、高崎市や群馬県の歴史や文化に立脚し、現状を正しく分析するとともに、未来についても考察を深めていく所存です。

今秋、新撰組副長土方歳三を主人公とする映画「燃えよ剣」（原作司馬遼太郎）がコロナ禍により1年半近くも遅れて公開されました。年明けには越後長岡藩牧野家家臣河井継之助を主人公とする映画「峠」（原作は同じく司馬遼太郎）が封切られる予定です。

ひるがえって高崎市（倉渕）は、江戸幕府最後の勘定奉行で無実ながら非業の死を遂げた小栗上野介忠順が有名です。鳥羽・伏見の戦いに始まり箱館戦争に終わる戊辰戦争は、錦の御旗を奉じた者たちによる幕府方を理不尽かつ一方的に断罪する戦いでした。そのような蛮行が二度と繰り返されないよう、我々は歴史に真摯に学ばなければなりません。

本学が経済学部と地域政策学部の二学部体勢であることから、本研究所の事業は経済的な観点や地域政策的な観点からなされるのが一般的です。とはいうものの、歴史や文化への興味関心は常に高く、また面白くもあります。経済的な観点や地域政策的な観点を織り交ぜながら面白く楽しい企画を考えていきたいと考えております。

市民・県民のみなさまには、地域科学研究所の諸

事業により一層ご参画いただき、その発展進化のために忌憚のない建設的なご意見をお願いするとともに、生涯学習、リカレント教育の場としてますますご活用いただきますことを心より祈念いたします。

\* \* \*

## 事業報告① 第4回市民ゼミ報告

第4回市民ゼミは、感染症対策を万全にしたうえで、昨年度に引続き本学で実施しました。

### ① 9/10 『増加する空き家に対応するか』

コロナ禍でしたが、当日は、10代から70代の幅広い年齢層から7名の受講生により、研究所発行のブックレット『空き家問題の背景と対策』を教科書にして、「増加する空き家に対応するか」というテーマで市民ゼミを行うことができました。

ゼミは、受講者の事前レポートの発表から始まり、活発な意見交換がなされ、あっという間に2時間が経過したと記憶しています。受講者の積極的な姿勢に感謝しています。

市民ゼミで主に意見交換された点は、以下のとおりでした。

まず、空き家問題は、少子高齢化に伴う人口減少が進む中で、新築住宅の建設が進み、中古物件が活用されない「新築信仰」に要因があるのではないかという点でした。(土地)所有と(建物)利用が一体としてなされており、土地を手放さないことにも起因して建物売却・利活用が促進されてこなかったか点が原因という意見もありました。今後は、所有と利用の分離による有効活用が進んでいくことが期待されるというまとめができたと思います。

また、増加する空き家といっても、大きく2つの空き家に分類できるかと思います。老朽化した空き家は倒壊しやすくなっている、いわゆる「危険な空き家」の場合と、もうひとつは、人が住んでいないが活用することができる「利活用可能な空き家」です。

危険な空き家については、空家等特別措置法によ

り行政代執行を行うことが可能になりましたが、行政代執行にかかる費用は、2016年3月に法に基づいて全国で初めて行政代執行を行った葛飾区で回収できたケース以外はほとんど回収できていないのではないかと思います。費用回収の面からも、行政代執行で解決するのは、最後の最後の手段であるといえましょう。その意味でも、危険な空き家にならないよう、利用可能な空き家を積極的に活用していくことは大切かと思えます。利活用可能な空き家については、積極的に売却するために「空き家バンク」により積極的に情報提供していくことが重要かと思えます。渋川市の空き家バンクは、令和3年6月14日現在で成約件数24件(うち23件売却)あり、群馬県内だけでなく、東京都、埼玉県、新潟県、熊本県の住民が成約しています。住宅市場は、市域を超えることがあるため、民間事業者(アットホーム、ライフホーム)と連携している国土交通省の空き家バンクに登録していることが成功の大きな要因になっていると思えます。受講生から指摘がありましたように「広域的空き家バンク」は重要ですので群馬県という選択肢もありますが、全国展開し、民間の新規物件市場とリンクしている国土交通省の空き家バンクの方がさらに有用ではないかと思えます。また、情報提供としては、高齢者と子育て世帯の需要をマッチングさせる千葉県流山市の「住み替え支援・ワンストップ体制」も注目したいところです。この他、東京都奥多摩町の移住制度とリンクした寄付された空き家の活用・15年居住した場合の移住者への譲渡、さらに、山形県鶴岡市でNPO法人が中心になって行っている空き家跡地を隣接所有者に売却する「ランド・バンク方式」などについても興味深いところです。

また、外壁材等落下による事故を想定し、民事上の工作物責任(民法717条)を記載した京都市の「空き家便利帳」、神奈川県相模原市のパンフレット「あなたの空き家大丈夫？」による「当事者意識」を喚起する取組みも大切だという点が共有できたと思えます。特に、受講生から出されたフォーカスした

情報提供は、市民に注意喚起する段階よりも一歩進んだ当事者意識を向上させる段階で有効な手段だと思います。

さらに、空き家の利活用を担う組織形態についても、高崎経済大学0号館を例にして空き家を実際に運営する法人の形態が、設立が容易で活動内容の制限が少ない一般社団法人の方がNPO法人より活用される場合もある点についても議論ができた点、有意義であったと思います。

そして、終活ともリンクできる「リバースモーゲージ」「リースバック」についても、売却価格、期間設定等の課題はあるが前向きな対応策として取り入れていくことでまとまったと思います。

最後に、企業誘致などを行い、雇用も充実させた「魅力あるまちづくり」にも貢献できる空き家といった面的整備についても議論ができてよかったと思います。住民が知恵を出し合って取り組みことが重要であるということが共有でき、非常に有意義であったと思います。

以上、今回の市民ゼミで議論された論点以外にも、所有者不明の空き家への対応、AIによる空き家診断などデジタル時代への対応、古民家を活用した空き家の利活用など議論しなければならない論点がありますが、市民ゼミの短い時間の中で、空き家問題について多岐にわたり多角的に議論ができ、貴重な時間を過ごすことができました。これも受講者の方々の積極的な姿勢のおかげだと感謝申し上げます。

今回の市民ゼミのような積極的な議論は重要だと思いますので、これからも様々な場所でこうした意見交換がなされ、積極的な社会活動につながっていただければと思います。このたびは、貴重な機会を与えていただき誠にありがとうございました。

岩崎 忠 (地域政策学部教授)



<市民ゼミ・岩崎クラス>

## ②9/21 『日本の人口減少・少子高齢化社会を考える』

今年度のある市民ゼミは、コロナ禍による3密を避けるため、鞆町にあるカフェあすなろではなく、本学6号館で開催されました。緊急事態宣言の解除後、間もなくでしたが、当日は高校生からご年配の方まで、実に多様な7名もの皆様方が来校下さいました。

まず自己紹介を兼ねて課題図書である河合雅司『未来の地図帳—人口減少日本で各地に起きること—』（講談社現代新書）の感想をそれぞれ述べて頂きました。お話を伺っていて、本書の捉え方が世代によって様々でありながらも、人口減少・少子高齢化問題に対する関心の高さを実感しました。とりわけ、若い世代が安心して定住定着できる地域をいかにつくるべきか、不足した労働力をいかに確保すべきかに論点が集約されました。

つぎに、私が用意した資料を参照しながら、さらに議論を深めていくことにしました。

人口減少の大きな要因には、若い世代の雇用機会が適切に確保されず、十分な収入が得られない結果、結婚や子育てを諦めてしまう世帯が増えていることが挙げられます。昭和時代に現役であった団塊世代は、終身雇用、年功序列、手厚い社会保障を享受でき、例えば、20代で結婚、30代で第一子誕生と夢のマイホームを取得するという、人生の中長期的なビ

ジョンを描くことができました。ところが、バブル経済の崩壊とともに、終身雇用は任期制に、年功序列は年俸制に、社会保障も一部任意となって、働き方のものが大きき変わったことは周知のとおりです。このような日本型雇用慣行から欧米型雇用慣行へ変化したことによって、大学卒業後も正社員や正職員になれず、40歳代になっても非正規雇用のまま歯を食いしばって頑張っている団塊ジュニア世代は少なくありません。

その一方、不足した労働力を海外に求める動きが強まっているのも事実です。確かに介護福祉などのエッセンシャルワーカーにおける人材不足は深刻で、人材確保は緊要の課題といえるでしょう。しかしながら、待遇の悪さから離職率も高く、せっかく海外から招いたとしても早々に退職してしまい、在留資格を失った後はインフォーマルセクターなどに就いて日本での生活を継続させることが社会問題となっています。

つまり、一方では仕事がしたくても仕事がなく、他方では人材不足で外国から招かれる。このようないびつな労働市場を是正していくことが、今後の日本社会には必要なのではないのでしょうか。

当日参加された皆様方は、とても意欲的で自分の意見をしっかりと持ちました。議論が白熱するあまり2時間では収まりきれない充実したゼミとなりました。本学2~4年生が履修するゼミも、今回の市民ゼミと同様に議論が高まればうれしいのですが。

暦の上では小雪を迎え、新型コロナウイルスの新規感染者数が劇的に減少しております。このまま終息に向かってくれればよいのですが、諸外国の動向をみますと、なかなか楽観視できないようです。ご参加下さいました皆様方におかれましては、時節柄、健康には十分な留意され、いつまでもお元気で活躍されることを祈念申し上げます。このたびは私自身もたいへん勉強になりました。ありがとうございました。

佐藤 英人（地域政策学部教授）



### <市民ゼミ・佐藤クラス>

#### ③9/29『農業・農村における社会貢献型事業のゆくえ』

2021年9月29日（水）18時から、本学の6号館612教室にて、2021年度あすなろ市民ゼミの第3回を実施した。群馬県はまだ緊急事態宣言下であるなかで、飲食ができないなど諸般の事情からCaféあすなろではなく本学で実施することになった。昨年度に引き続き、Caféあすなろの雰囲気や美味しいコーヒーを味わいながら市民ゼミが出来ない状況であることは極めて残念であった。このような状況のなかでも、年代やお立場が多様な6名の受講生の方々にお集まりいただけた。

今回のテーマは「農業・農村における社会貢献型事業のゆくえ」と題し、私も編著者として参加した伊庭治彦、高橋明広、片岡美喜『農業・農村における社会貢献型事業論』（農林統計出版、2016年）を題材とした。本書を指定したのは、幅広い層の方々がお集りになる市民ゼミにおいて農業や食に関わるテーマを扱う際に、それぞれのお立場からなんらかの事柄を考え、ご経験を踏まえた意見が聞けるのではないかと、そうすることで受講者間の理解も深まるのではないかと意図であった。

同書で扱う「農業・農村における社会貢献型事業」とは、「社会的課題やニーズに応じた農業経営とそれに付随した地域活動あるいは（非営利活動を含め

た) 事業展開」と定義づけたものである。地域において多様に展開される農業・農村における様々な実践は、グリーンツーリズムをはじめとした観光的な活動もあれば、農作業を通じた教育や福祉に関わる実践、農山村での高齢者らへの生活支援もあるなど多岐にわたっている。こうした取り組みは、「農業」というひとつの産業が担う役割に終始するものではなく、分野横断的に地域社会の課題解決を試みる実践として期待されるものである。同書を執筆した研究グループにおいて、農業分野や農村社会で確認されるこのような諸活動を定義づけるとすると、さながら「社会貢献型事業」とも呼ぶべき存在になっているのではないかと考えて上梓したものであった。

市民ゼミの前半では、テキストの第1章である「農業・農村における社会貢献型事業の基本概念とその特質」について、私から解説させていただいた。すでに受講生の皆さんはお読みいただいているという前提のもとで、改めてポイントになる部分をご説明させていただいたうえで、農業・農村における社会貢献型事業が置かれる課題を指摘して、次の意見交換に移れるように話題提供を行った。

後半は事前課題として提示していた「テキストを読んで気になるトピックとその理由」を受講生の方々に述べていただいた。それぞれ異なる論点や見方をご提示いただいたが、いずれの方においても、地域社会における問題を的確に捉えており、そこにおいて農業・農村における社会貢献型事業にあたる取組の役割について、ご自身が知っている例や見聞きしたことと結び付けていることが印象的であった。ある方は県内の実践事例を挙げていただき、実際に現在の活動状況が気になり、実際に問い合わせてそのことをご報告いただいた。受講生の皆様のご経験や熱意を聞くことができ、私自身大いに示唆に富む時間を得られた。

大学のゼミ学習において、1冊の文献を読みとくには短くて半期、あるいは通年をかけて輪読することも多い。あすなる市民ゼミでは、文献解説から討

論までを、約2時間という非常に限られた時間で実施するものである。そのため、受講生の皆さんは内容や進行に関して消化不良の部分や、議論したりなかったことがあるのではないかと気がかりである。しかしながら、短い時間のなかでもそれぞれのお立場から本テーマをお考えくださり、意見を述べ、他の受講生のお話を聞いて理解を深めた時間は得難い貴重な経験となった。

最後に、このゼミにご参加いただいた受講生の皆様、運営して下さった事務局の皆様にご心より感謝を申し上げたい。

片岡 美喜 (地域政策学部教授)



<市民ゼミ・片岡クラス>

#### ④10/12『従来型の商業の存在意義は?』

2021年10月12日(火)18時から本学611教室にて「従来型の商業の存在意義は?」をテーマに市民ゼミを担当させていただきました。事前の内容設定は「従来型の商業、とくに商店街の存在意義について考える中で、日本型流通に関して学び、リアル店舗の生き残りを論じます」とし、テキストは満園勇『商店街はいま必要なのか「日本型流通」の近現代史』(講談社現代新書、2015年)を使用しました。また、事前課題は「テキストを読み、都市商業の問題として身近な場所または国内各地の事例を1-2点程度挙げ、ご自身なりに、その課題と解決策を考えて来てください」としました。

私が前回担当した2019年のあすなる市民ゼミでは「商店街」にテーマを絞りましたが、今回は商業

一般の動向を学ぶ企画としました。ご登録者の中には2年前にもご出席くださった方が2名おられ、うち1名は今回残念ながらご欠席されましたが、ご出席された方からはさらに発展したお話を伺うことができました。

前半の講義では、「商業」に関連する地域経済学の議論をかいつまんでご紹介しました。これに引き続き、満園（2015）の概要を解説しました。第1章は百貨店の歴史を学び、関連する規制などについても触れました。第2章は通信販売の発祥と近年における展開に関するものでした。また第3章は商店街について、満園（2015）なりの議論がなされていました。さらに第4章ではスーパー、第5章ではコンビニエンス・ストアの特徴と歴史をまとめてお話ししました。

ご出席の方々は事前にテキストをよく読んでからご出席されていたので、各自のご経験などを中心に、すぐに応用的な議論に入ることができました。今回も、実際に高崎市内での商業の経験をお持ちの方や、県内で政策的支援のご経験をお持ちの方がご参加されていたため、一般的な学習や本テキストからは知ることができない、大変具体的で興味深いお話を伺うことができました。（私自身も含め）どの方も、とくに群馬県内においては今や商店街など従来の商業を現状のまま継続することは不可能に近い上、消費者・経営者にとって必ずしも便益が高いとは言い難いという共通の問題意識の下、実際に消費者に求められ、経営者にとっても稼ぐことが可能なリアルな商業はどのようなものかといったことに関してアイデアを出し合いました。

最終的に、大型店やネット販売が提供できない雰囲気や場、心のふれあい、個性的な商品などを追及していくしかないのではないかという点で、出席者の方々と意見の一致をみたように感じます。2年前は「なぜ商店街は衰退してしまったか」「守るにはどうすればよかったか」といった後ろ向きの議論が中心でしたが、今回は単に守りの姿勢に終始するのではない、人々に求められる商業とは何かといった、

やや建設的な議論ができたように思いました。

ご出席者は前回に引き続き中高年の方々でしたが、その準備や授業への姿勢、課題の内容には通常学生からは感じられないほどの積極性がみられました。社会でのご経験が、いかに授業を豊かで実りあるものにするかという点を強く感じました。

米本 清（地域政策学部准教授）



<市民ゼミ・米本クラス>

## 事業報告② 第38回公開講座報告

第38回公開講座は、感染症対策の観点から、ハイフレックス方式（同じ内容の講義を、対面とオンライン配信で同時に行う方法）で、別掲のとおり実施しました。受講者103名の内、58名が7回以上出席され、修了証が手渡されました。なお、希望の受講形式は対面のみが37名、オンラインのみが18名、対面またはオンラインが35名、無回答が13名でした。受講生の方々は、対面・オンライン配信ともに、熱心に受講され、講師には質問を積極的にされていました。

### 《第38回公開講座》

#### ①10月19日

小牧 幸代所員（地域政策学部教授）

「記憶の中のカップピア～家族の出来事はいかに歴史表象となりうるか～」

#### ②10月25日

中野 正裕所員（経済学部准教授）

「データから読み解く経済・金融と私たちの暮らし」

#### ③10月27日

藻利 衣恵所員（経済学部准教授）

「ストック・オプション取引における資本説の確立～実務対応報告第41号『取締役の報酬等として株式を無償交付する取引に関する取扱い』における没収を題材にして～」

#### ④11月4日

唐澤 達之所員（経済学部教授・副学長）

「近代のロンドン～水・疫病・公衆衛生～」

#### ⑤11月10日

黒崎 龍悟所員（経済学部准教授）

「アフリカ農村におけるマイクロファイナンスの現在～社会・文化的側面からの検証～」

#### ⑥11月12日

王 雪所員（経済学部准教授）

「加速する中国のイノベーション」

#### ⑦11月18日

藤本 哲所員（経済学部教授）

「ICTが広げる教育の可能性」

#### ⑧11月26日

岩崎 忠所員（地域政策学部教授）

「地方創生時代の自治体間連携～令和の大合併はあるのか～」

#### ⑨12月1日

佐藤 英人所員（地域政策学部教授）

「人口減少・少子高齢化社会を考える」

#### ⑩12月8日

井手 拓郎所員（地域政策学部准教授）

「『観光まちづくり』とは何か～概念誕生の背景と事例から考える～」



<講義の様子 講師：唐澤 達之所員>

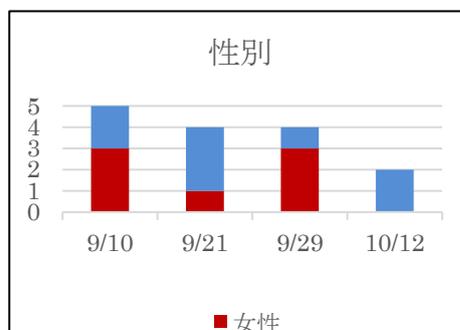
《第4回市民ゼミ》

○各回のゼミ終了後、アンケートを配付し、後日返送により回収。

問 1. ご自身についてお答えください。

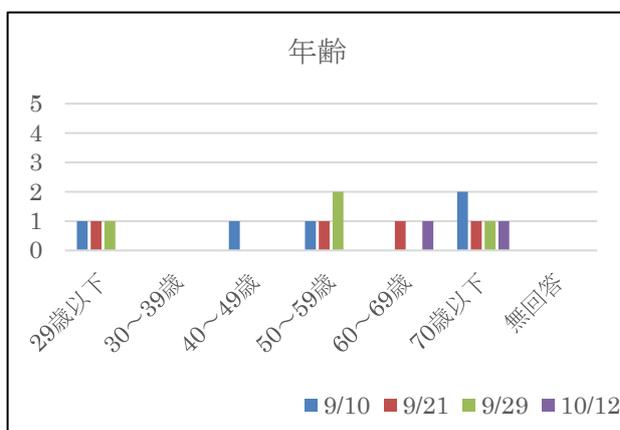
【性別】 9/10 9/21 9/29 10/12

女性	3人	1人	3人	0人
男性	2人	3人	1人	2人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



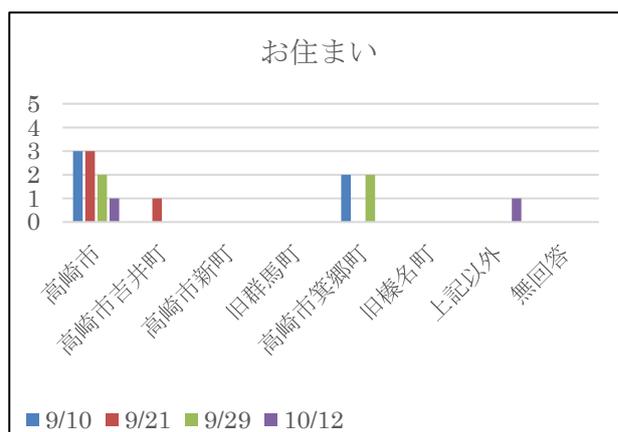
【年齢】

29歳以下	1人	1人	1人	0人
30～39歳	0人	0人	0人	0人
40～49歳	1人	0人	0人	0人
50～59歳	1人	1人	2人	0人
60～69歳	0人	1人	0人	1人
70歳以上	2人	1人	1人	1人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



【お住まい】

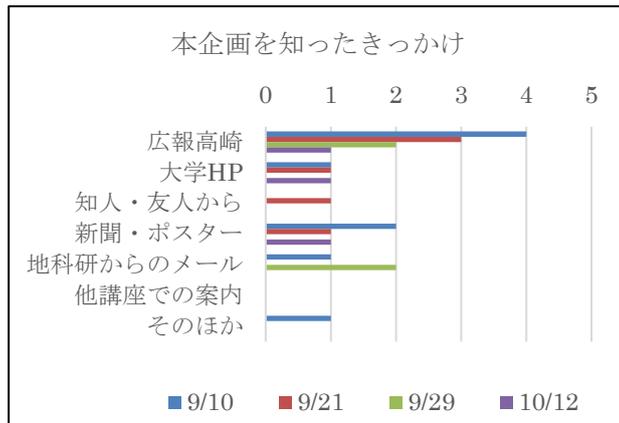
高崎市	3人	3人	2人	1人
高崎市吉井町	0人	1人	0人	0人
高崎市新町	0人	0人	0人	0人
旧群馬町	0人	0人	0人	0人
高崎市箕郷町	2人	0人	2人	0人
旧榛名町	0人	0人	0人	0人
上記以外	0人	0人	0人	1人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



※上記以外……前橋市

問 2. 本企画をどこでお知りになりましたか。(複数回答可)

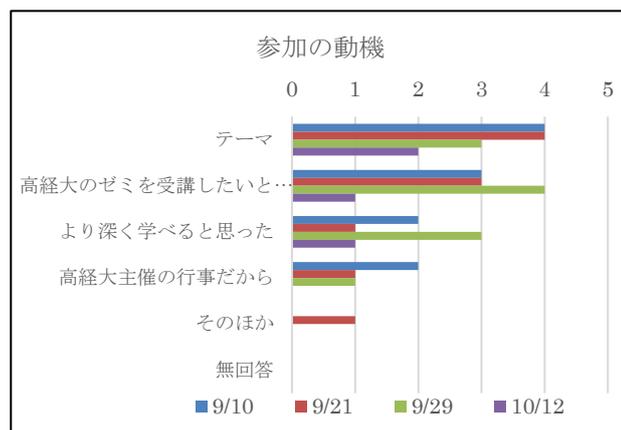
広報高崎	4人	3人	2人	1人
大学のホームページ	1人	1人	0人	1人
知人・友人から	0人	1人	0人	0人
新聞・ポスター	2人	1人	0人	1人
本研究所からのメール	1人	0人	2人	0人
他講座での案内	0人	0人	0人	0人
そのほか	1人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人



※そのほか……職場

問 3. 受講された動機をお聞かせください。(複数回答可)

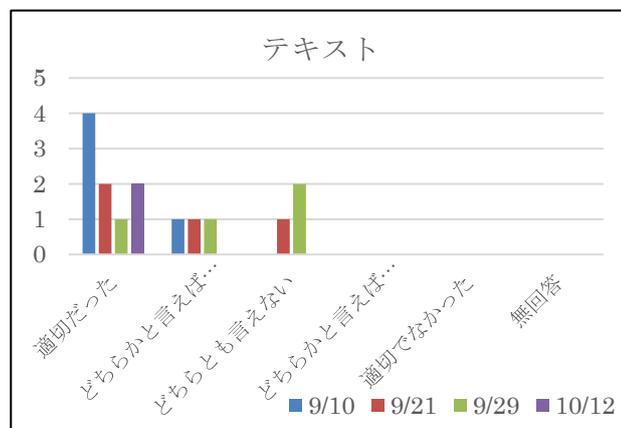
テーマに関心があった	4人	4人	3人	2人
高崎経済大学のゼミを受講したいと思った	3人	3人	4人	1人
より深く学べると思った	2人	1人	3人	1人
高経大主催の行事だから	0人	0人	0人	0人
そのほか	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人



問 4. 受講された感想をお聞かせください。

【テキストは適切でしたか】

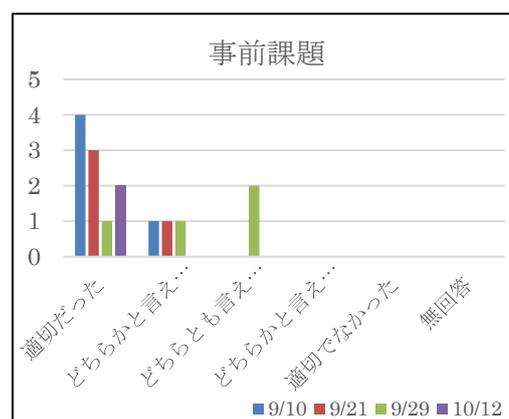
適切だった	4人	2人	1人	2人
どちらかと言えば適切	1人	1人	1人	0人
どちらとも言えない	0人	1人	2人	0人
どちらかと言えば適切でない	0人	0人	0人	0人
適切ではなかった	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



- ・日本の人口減少の推移を時代,地域毎に詳細に分析し将来の日本の様子がイメージできた。しかし,分析のみに終始している感がある。「王国」論は少し説得力がない気もした。
- ・私にはテキスト半分まで難しくスマホ片手に調べながらでした。
- ・良いテキストを選んで頂き大変勉強になった。

【受講前の課題は適切でしたか】

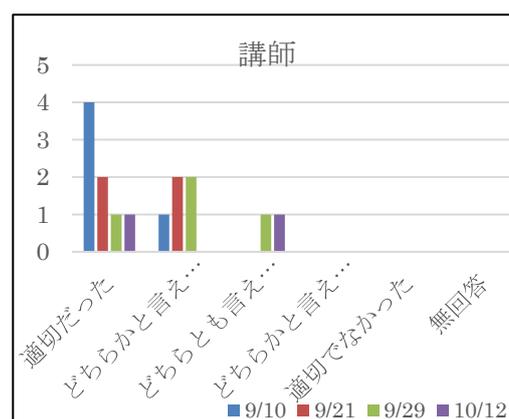
適切だった	4人	3人	1人	2人
どちらかと言えば適切	1人	1人	1人	0人
どちらとも言えない	0人	0人	2人	0人
どちらかと言えば適切でない	0人	0人	0人	0人
適切ではなかった	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



- ・もう少し具体的に課題を指定していただけるとありがたかった。
- ・書籍を読んでも難しいテーマだったため準備に苦慮した。
- ・テキストと課題は一致していた。

【担当講師のゼミ授業は適切でしたか】

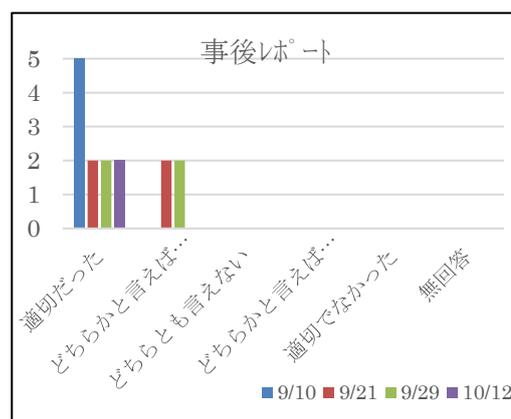
適切だった	4人	2人	1人	1人
どちらかと言えば適切	1人	2人	2人	0人
どちらとも言えない	0人	0人	1人	1人
どちらかと言えば適切でない	0人	0人	0人	0人
適切ではなかった	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



- ・ゆっくり話して頂けたら,内容がわかりやすかった。
- ・たくさんの事を伝えようとしたが,テキストを読んで課題に回答できる準備が出来ていることを前提とした授業で良かったのではないかと思います。

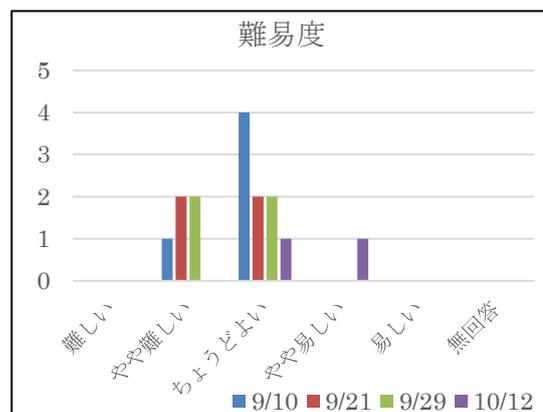
【事後レポートの課題は適切でしたか】

適切だった	5人	2人	2人	2人
どちらかと言えば適切	0人	2人	2人	0人
どちらとも言えない	0人	0人	0人	0人
どちらかと言えば適切でない	0人	0人	0人	0人
適切ではなかった	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



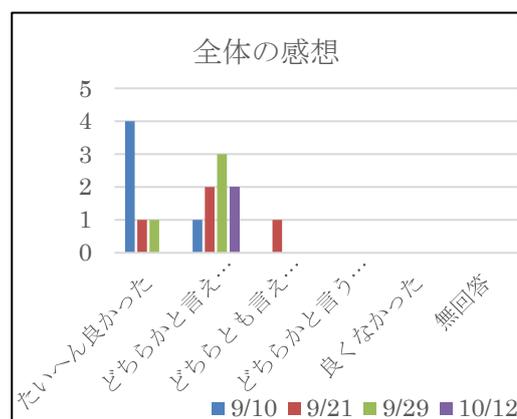
問5. 受講された市民ゼミナールの難易度についてお聞かせください。

難しい	0人	0人	0人	0人
やや難しい	1人	2人	2人	0人
ちょうどよい	4人	2人	2人	1人
やや易しい	0人	0人	0人	1人
易しい	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



問6. 受講を終えられて、市民ゼミナール全体の感想をお聞かせください。

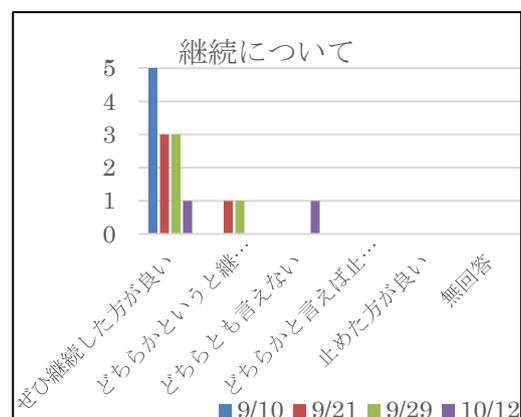
たいへん良かった	4人	1人	1人	0人
どちらかと言えば良かった	1人	2人	3人	2人
どちらとも言えない	0人	1人	0人	0人
どちらかと言えば良くなかった	0人	0人	0人	0人
良くなかった	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



- ・ 2時間だと足りなかったの、土日にやって頂けるとありがたい。
- ・ 講師の先生から得るものもあったが参加者の意識、学ぶ気持ち、が伝わるのが大きかった。

問 7. この市民ゼミナールは今後も継続した方がよろしいでしょうか。

ぜひ継続したほうが良い	5人	3人	3人	1人
どちらかと言うと 継続させたほうが良い	0人	1人	1人	0人
どちらとも言えない	0人	0人	0人	1人
どちらかと言えば 止めた方が良い	0人	0人	0人	0人
止めた方が良い	0人	0人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	0人
合計	5人	4人	4人	2人



問 8. 市民ゼミナールで取り上げると良いと考えられるテーマがありましたら、教えてください。

- ・SDGsの取り組みについて
- ・公共交通機関の充実の方策
- ・都市機能の充実について
- ・住みやすい街づくり
- ・地域運営組織について（活動内容,連携方式など）
- ・今回,地域政策学部主催の内容と思われるゼミでしたが,経済学部主催の内容も興味があります。  
魅力ある街づくり,SDGsの取り組み,観光づくり
- ・国,地方自治体の財政問題（財政再建はどうするのか）
- ・人口の流れは若い女性ぬきに考えられないかもしれないが,根本にあるものは生み育てることの大切さ,生きて死ぬということの理由。
- ・人を育てること,育てることは何に向かうかなど。
- ・若い人たちが希望を未来へもてるゼミをお願いします。
- ・公共事業のあり方,利用や水道事業（下水道含む）
- ・公共交通機関のあり方
- ・日本の社会のあり方を深く考えるテーマが設定できれば実業界で活躍中の多くの人に関心を持ってくれると思う。

問 9. 高崎経済大学の市民向け事業全般について、ご意見がありましたら、お聞かせ下さい。

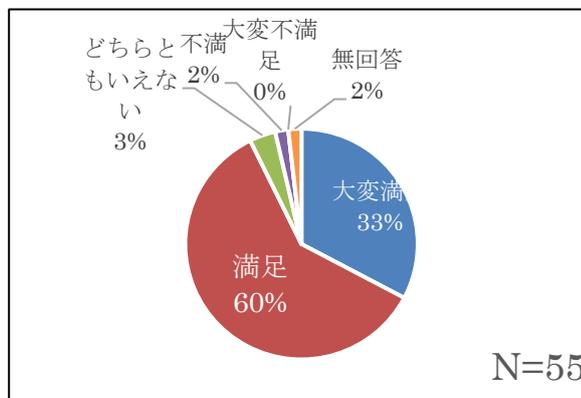
- ・授業は内容が充実していてよかった。問題点も共有できて、大変参考になった。身近なテーマであり、地域社会に今後活用できる。
- ・レポートの提出原稿はもう少し工夫をしてほしい。パソコンで打ちやすいことができればありがたい。
- ・リカレント教育。学生と一緒に授業を受けられたら良いのではないか。  
講師の先生方の取組姿勢が大変良かった。楽しい授業であった。  
テキストを読んだが適切ですし事前課題もよい。  
1つのテーマを2回してもよいのでは。ありがとうございました。
- ・事前課題はよいが、ゼミの時間が足りない。2回に分けて開催するとより理解が深まると考えます。
- ・初歩的なことを教えてほしい。経済は人にとってどのように必要なのか。
- ・連続2回で講義をしたらより役立つと思います。先生の負担がありますかね。  
2回のうち1回はあすなろで開催は良いと思います。
- ・大学なので、もっと専門性にこだわってもよいのではないか。市民講座は一般教養的なテーマ、ゼミは専門的なテーマの設定が望まれる。  
人を集めるのが大変なので大学の苦悩も充分に理解はできます。ありがとうございました。

《第38回(2021年度)公開講座》

○最終回(12/8)受講後, アンケート調査を実施。[有効回答数: 55人(回収率: 81%)]

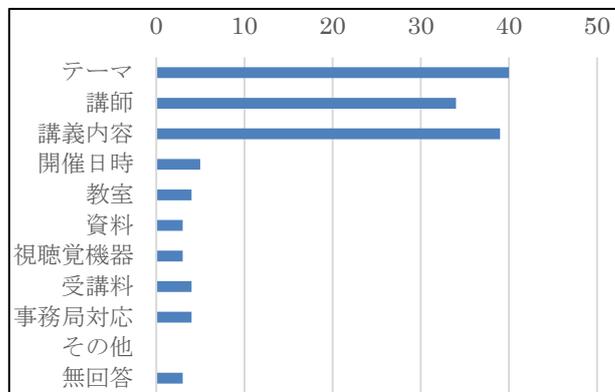
問1. 満足度

大変満足	18人
満足	33人
どちらともいえない	2人
不満	1人
大変不満足	0人
無回答	1人
合計	55人



問2. 問1で「大変満足」「満足」と回答した方が評価する点(複数回答可)や講師に向けての感想(自由記入) (抜粋)

テーマ	40人
講師	34人
講義内容	39人
開催日時	5人
教室	4人
資料	3人
視聴覚機器	3人
受講料	4人
事務局対応	4人
その他	0人
無回答	3人



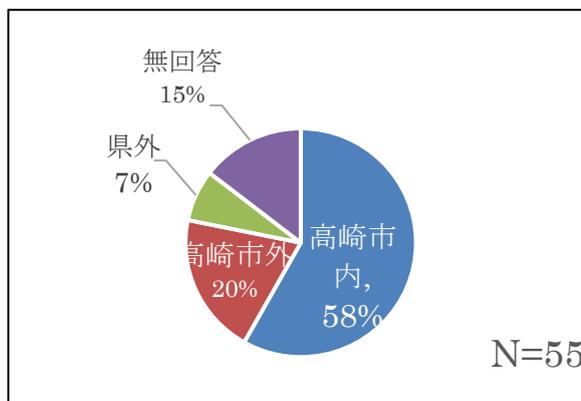
- ・ 講義内容が具体的でしたのでとても興味深い内容でした。
- ・ 具体的な事例を挙げて説明していただき分かりやすかった。  
群馬県の例を挙げていただければもっと良いのではないですか。
- ・ 「まちづくり」を論理的に表現していただき、とても理解し易かった。建築学が「観光地まちづくり」に関連しているとは驚きました。
- ・ 大変良かったです。楽しく先生の講義を受けることが出来ました。まちづくりは先生のお話でもありましたように住民全体での参画・活動だと思えます。高崎市でもお祭りの活動が活発に行われている方と思っています。私は、高崎市に住み始めてまだ日が浅いですが高崎市が大好きです。

問 3. 問 1 で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と回答した方が指摘される点  
(自由記入) (抜粋)

・配布資料はスライド (パワポ) と同様なものをお願いしたい。追いかけるのがよい。

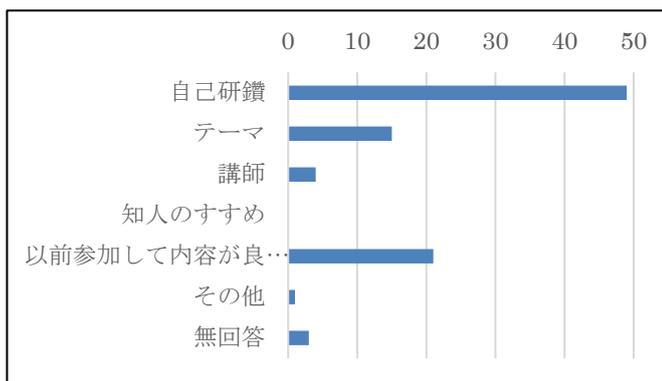
問 4. 通学・通勤・所属先の地域

高崎市内	32人
高崎市外	11人
県外	4人
無回答	8人
合計	55人



問 5. 受講の理由(複数回答可)

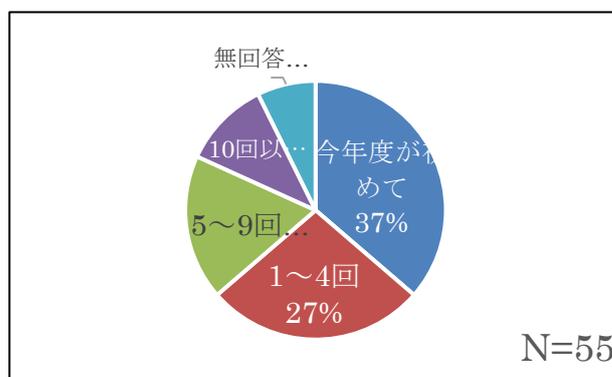
自己研鑽	49人
テーマ	15人
講師	4人
知人に勧められた	0人
以前参加して内容がよかった	21人
その他	1人
無回答	3人



※その他・・・息子が高崎経済大学に今年入学したので大学のことを知りたくて受講しました。

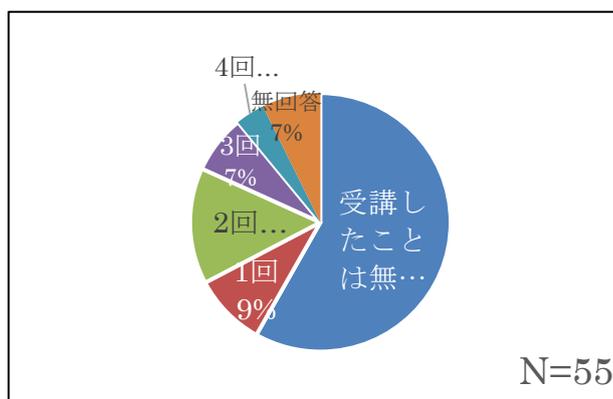
問 6. 昨年度までの受講回数 (連携公開講座も含む)

今年度が初めて	20人
1~4回	15人
5~9回	10人
10回以上	6人
無回答	4人
合計	55人



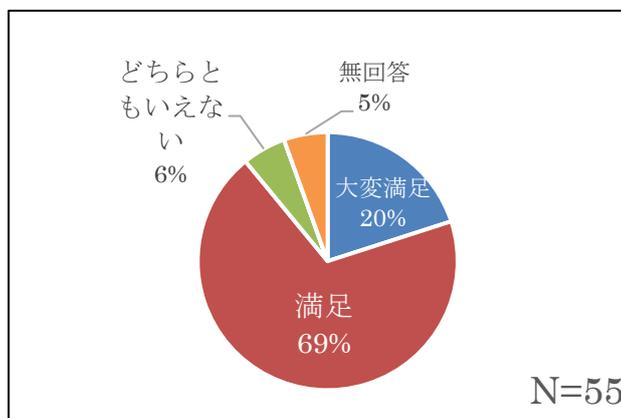
問 7. 春季連携公開講座の受講回数

受講したことはない	32人
1回	5人
2回	8人
3回	4人
4回	2人
無回答	4人
合計	55人



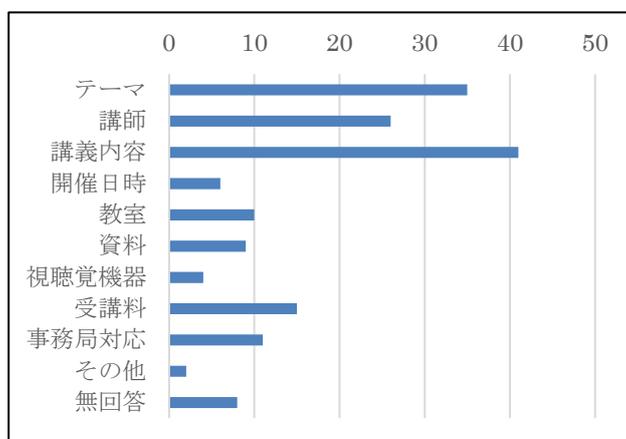
問 8. 今回講座の全体的な満足度

大変満足	11人
満足	38人
どちらともいえない	3人
不満	0人
大変不満足	0人
無回答	3人
合計	55人



問 9. 問 8 で「大変満足」「満足」と回答した方が評価する点 (複数回答可)

テーマ	35人
講師	26人
講義内容	41人
開催日時	6人
教室	10人
資料	9人
視聴覚機器	4人
受講料	15人
事務局対応	11人
その他	2人
無回答	8人



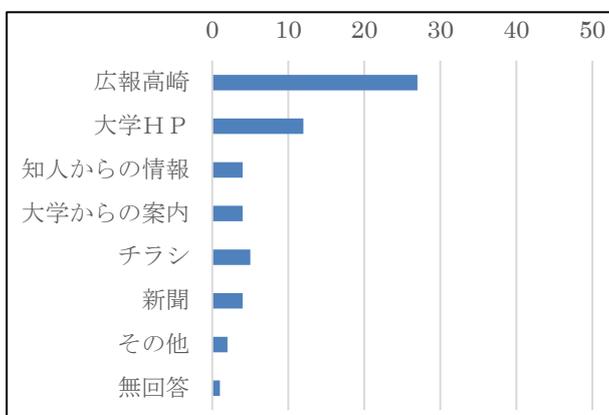
※その他……オンライン開催,ネットワーク環境で受講出来た

問10. 問8で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と回答した方が挙げた改善すべき点  
(複数回答可) (抜粋)

- ・開催日時のうち,時間帯を「午前もしくは午後もう少し早く」を希望。
- ・大テーマは興味・関心のあるものだったが個別の中身がちょっと違っていたため。
- ・文字が小さくて見づらい資料もありました。
- ・開講時間が昨年よりも早まり個人的に出席が厳しかった。

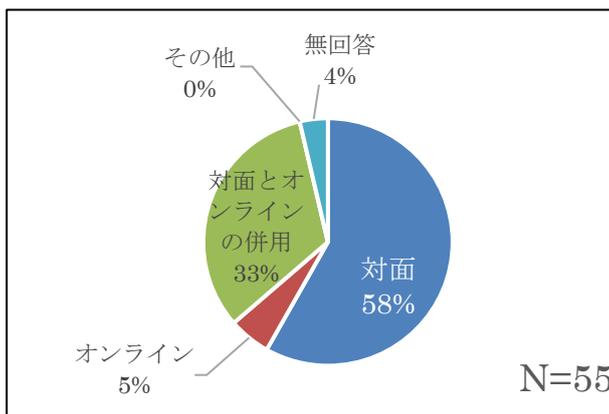
問11. 本講座をお知りになったきっかけ (複数回答可)

広報高崎	27人
大学ホームページ	12人
知人からの情報	4人
大学からの案内	4人
チラシ	5人
新聞	4人
その他	2人
無回答	1人



問12. 今後の公開講座に参加する場合,希望する受講スタイル

対面	32人
オンライン	3人
対面・オンライン併用	18人
その他	0人
無回答	2人
合計	55人

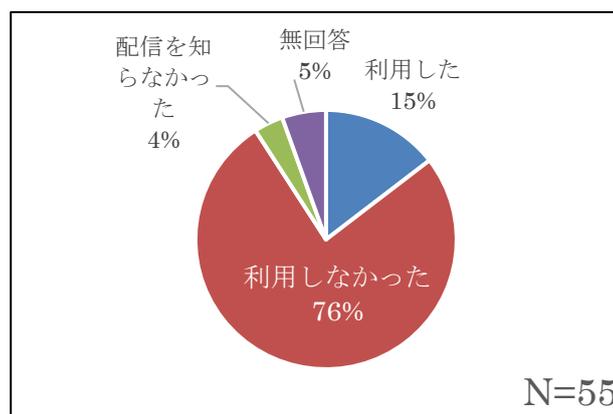


## 問 1 3. 今回初のオンデマンド（録画）配信の利用状況

利用した	8人
利用しなかった	42人
配信を知らなかった	2人
無回答	3人
合計	55人

## ※利用した回数

- 1回・・・3名
- 2回・・・2名
- 4回, 6回, 7回・・・各1名



## 自由記述欄（取り上げてほしいテーマ・分野, 事務局へのご要望・お気づきの点など）（抜粋）

- ・人口問題を取り上げて欲しい
- ・東日本大震災の被災3県の経済現況も取り上げて頂きたい。
- ・毎回楽しみに参加させていただきました。講師の皆様,事務局の皆様ありがとうございました。
- ・概論,総論的な講義から各論に踏み込んだ講義が聞きたい。自己研鑽はもとより実学・実践的な,具体的な講義がいいと思います。10回目（「観光まちづくり」とは何か）の公開講座は特に良かったと思います。
- ・修了証書ありがとうございました。この10回の公開講座に参加できて良かったです。
- ・対面2回,オンライン5,6回受講させていただいたがやはり対面で受講する方が楽しいし,講師の話を集中して聞くことができた。
- ・講師のご都合もございましょうが極力登壇していただきたい。受講したという気持ちが大い修了書。以前もいただいたことがあるが,やはり張り合いがある宜しい事だと思う。加えてけじめがつく。
- ・公開講座開催時間外でも事務局との交流とか,アドバイスを受けられるラインを作って欲しい。
- ・来年も是非公開講座を開催して欲しい。
- ・少子高齢化問題,医療問題,国家財政問題,群馬県や高崎市の問題や提言など
- ・経済と地域発展,経済と歴史,世界の各地域の経済発展,経済と政治等さまざまな角度から経済学をアプローチしてほしい。
- ・コロナ禍における経済・社会の変化と今後に予想される懸念等について来年のテーマとして取り上げて欲しい。
- ・高崎歴史,地域の特徴,直近経済動向。
- ・次回参加の「励み」にしたいため公開講座参加記念にボールペン1本でも良いので欲しかった。
- ・一人の先生の連続講義。
- ・県外からですが次回もオンラインで参加させていただきたいです。
- ・更に地域の問題について取り上げてほしいです。

### 地域科学研究所動静

- ・地域科学研究所紀要『産業研究』第57巻第1号を発行しました。今号では、論文1本、研究ノート2編、書評を1編掲載しました。本学ホームページ（リポジトリ）よりご覧頂けます。
- ・研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」（リーダー：永田瞬所員）の成果報告書『地方製造業の躍進－高崎発ものづくりのグローバル展開－』を発刊しました。

### 編集後記

今年度もまた、新型コロナウイルスに翻弄された1年となりました。5月～6月の連携公開講座は中止となってしまいましたが、所長や所員の意向により、対面での実施に加えてオンラインでの実施を検討することとなりました。実際に今年度は、公開講座をはじめ、さまざま事業についてオンラインを併用し実施してきました。

オンラインを併用することで、市外・県外からの受講者が増えたほか、自宅や職場から受講でき、受講しやすくなったとのご意見を伺いました。

一方で、やはり対面のほうが集中できる、直接講師に質問したいといったご意見も伺い、対面での実施のニーズを強く感じました。

今後また皆様に学びの場をご提供できるよう、事務局一同準備を進めて参ります。

(MI)

高崎経済大学地域科学研究所

ニュースレター No.16

発行 2022年3月15日

群馬県高崎市上並榎町 1300(〒370-0801)

TEL(027)344-6267 FAX(027)343-7103

E-mail : chiikikagaku@tcue.ac.jp

©TIRS